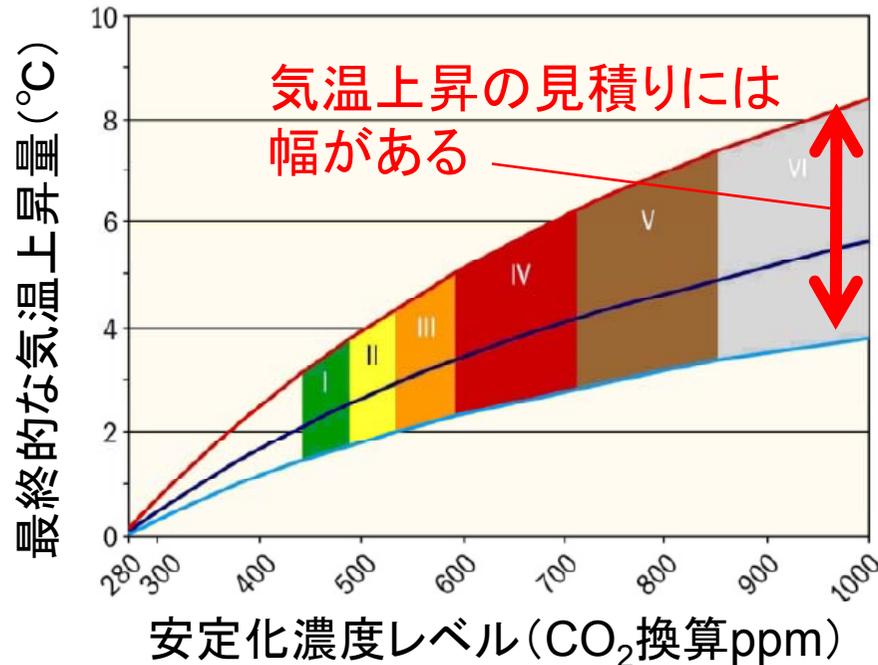


# IPCCの提示する安定化レベル



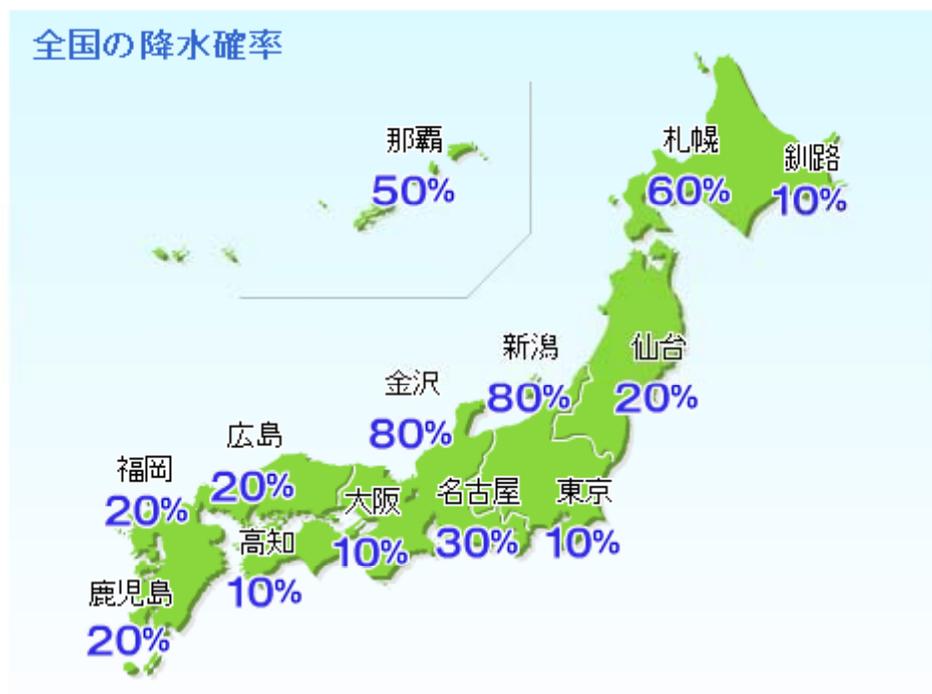
IPCCは複数の選択肢  
(安定化レベル I ~ VI)  
を提示している。  
どれを選ぶかは社会が  
(政治が)決める。

IPCC AR4 SYR SPM

「気候システムへの危険な人為的な干渉」とは何かの決定には価値判断を含む。この課題に対して科学は、どの脆弱性が「主要」かについて判断するための基準の提供などにより、情報に基づく意志決定の支援を行うことができる。

# 不確実な情報に基づく意思決定

例:「降水確率」→何%なら傘をもっていく?



- 雨に降られた場合の被害
- 傘をもっていく面倒さ(コスト)
- 心配性か、いきあたりばったりかによっても違う